2024 年度:こども園自己評価の報告書 てらうちこども園

評価項目	取り組み状況
教育・保育方針と内容	<ul style="list-style-type: none"> ・0歳児からの受け入れに伴う改修工事により保育室など環境が大きく変わったことや、自発的に遊びに取り組めない子ども達の現状から「子どもが自主的に過ごせる環境づくり」をテーマに取り組む。保育室内の動線や遊びと生活の場を意識した環境設定を行う。子ども達が主体的に遊びを広げ、集中して遊ぶ姿が見られるようになった。 ・様々な年齢と異年齢交流を行い、同学年の中では得られない経験をすることが、新たな発見や自信につながっている。
健康支援	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の身体計測時などに、保健担当が、自分の体も友達の体も大事にできるように、体の働きや健康について話をした。 ・季節、気温などに合わせて衣服調節を行いながら、戸外遊びでしっかり身体を動かす活動を取り入れた。 ・子ども・保護者にとって必要な情報や願いを「ほけんだより」の配信や玄関掲示等を行い、一緒に感染拡大防止や健康づくりに取り組めるように発信した。
安全指導・危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月安全点検及び避難訓練を行い、クラス環境の見直しや避難経路・方法の確認を行う。危険個所があった場合は、速やかに修理修繕を行い、事故防止に努めた。 ・様々な状況を想定し、担当を中心に避難訓練の事前事後で検討・反省を行い、よりスムーズに、安全に避難できるように改善案の周知に努めた。回数を重ねることで、避難訓練の意味や避難する時の注意点を子ども達も理解して行動できてきている。
食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・自園調理での給食が始まり、主食・汁物・副菜をそれぞれの食器で提供する。食事に対する関心が高くなり、自分で食べる喜びやおいしく食べる楽しさを感じている。玄関にその日の給食を展示し、三大栄養素を掲示。降園時に展示食を見ながら親子で話をする姿がある。 ・畑やプランターで野菜を栽培する。毎日水やりをして生長を見守ってきたが、暑さでうまく育たなかった野菜も多かった。収穫できたものは給食に入れてもらったり、クッキングをしたりして食べる喜びを経験した。
子育て支援（在園児および地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス・個人懇談や送迎時に子どもの育ちを伝えるとともに保護者が抱えている悩みや不安を知り、一緒に考えていくきっかけとした。保護者参加型の参観「いっしょにあそぼうデイ」を行い、クラスの子どもの様子や保護者同士を知り合う機会となった。 ・乳児クラスの生活記録や保育の様子の動画を配信アプリで配信し、保護者の負担軽減とともに、日頃の子どもの様子を知らせていった。 ・「のびっこひろば」を週1回、のびっこルームの利用を毎日午後の2時間開放する。また、歳児別サークルや子育てサロンとの交流を行った。
インクルーシブ教育保育	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の特性を踏まえ、いろいろな子どもと一緒に生活することで、それぞれに違いがあることに気付き、助け合い、認め合っていくことができるよう活動を進めてきた。 ・講師を招聘しての研修を行い、子どもの行動をどう理解し、関わっていくかを学び職員が共通する関わり方を検討してきた。 ・保護者支援として、他機関と連携をとり、必要な支援につなげるよう心掛けた。

<p style="text-align: center;">職員の資質の向上</p> <p>*園評価 *自己評価 *ガイドラインなど</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講師招聘などの研修で学んだことはすぐに実践し、担任間で相談しながら進めている。また、教材になるようなものを発見した時は共有しあって活用の方法を検討し導入している。職員同士で報告しあい、アドバイスしながら進めていこうとする姿がある。 ・乳児保育、特に行事の参加については、前例にとらわれずに子どもたちにとってどうなのかを考え、検討して実施した。
<p style="text-align: center;">幼保こ小中の連携・接続</p> <p style="text-align: center;">*園同士のつながりも含む</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・就学予定の小学校と連携し、各校から子どもの様子をこども園に見に来てもらいながら話をするなど、丁寧に引継ぎを行っている。 ・近隣小学校の校庭で遊ばせてもらったり、授業を見学させてもらったりした。 ・こども園、小・中学校の職員で行う実践交流会で当園が報告を行う。報告を受けて討議する中で、こども園での育ちを小・中学校が引き継いでいく必要性について意見が出された。
<p style="text-align: center;">評議員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・改修後の新園舎と子どもたちの活動の様子を見てもらい、それぞれの立場から意見をいただいた。 ・園の取り組みを知っていただくことで、評議員から地域の行事へ参加の声掛けをいただき、多世代交流のきっかけとなった。
<p style="text-align: center;">その他</p>	

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
<p>子ども達の育ちを踏まえた各年齢の教育 保育のポイントの可視化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実践から見えてきた各年齢の育ちと保育のポイントを洗い出し、表を作成。 ・保護者にわかりやすいよう編集して提示する。
<p>保護者が何に困って、悩んでいるのかを 把握し、一緒に考える技量の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師や園外の研修で子育て相談にかかわる技法などを学ぶ。 ・相談したり、つないだりできる関係機関を把握し、連携を図る。

令和7年（2025年）3月31日
豊中市立 てらうちこども園
園長名 大石 智子